

# 2021年3月期第1四半期 決算説明

2020年8月5日  
日本ケミコン株式会社

## ● 2020年度第1四半期実績

単位：億円

	2019年度		2020年度	前年同期比		前四半期比	
	第1四半期	第4四半期	第1四半期	増減	(%)	増減	(%)
売上高	287.2	289.7	237.8	△49.4	△17.2	△51.9	△17.9
営業利益	△9.4	△9.0	△3.1	+6.3	-	+5.8	-
売上高比率	△3.3%	△3.1%	△1.3%	+2.0pt	-	+1.8pt	-
親会社株主に帰属する当期利益	△12.9	△25.7	△6.1	+6.8	-	+19.6	-
売上高比率	△4.5%	△8.9%	△2.6%	+1.9pt	-	+6.3pt	-
設備投資	14.5	13.8	8.3	△6.2	△42.8	△5.5	△39.9
減価償却費	17.2	18.8	14.5	△2.7	△15.7	△4.3	△22.9
研究開発費	10.5	10.2	9.4	△1.1	△10.5	△0.8	△7.8
平均為替レート USドル(円)	109.90	108.92	107.62	2.1%の円高		1.2%の円高	
ユーロ(円)	123.49	120.11	118.48	4.1%の円高		1.4%の円高	

## ● 2020年度第1四半期実績（製品別売上高）

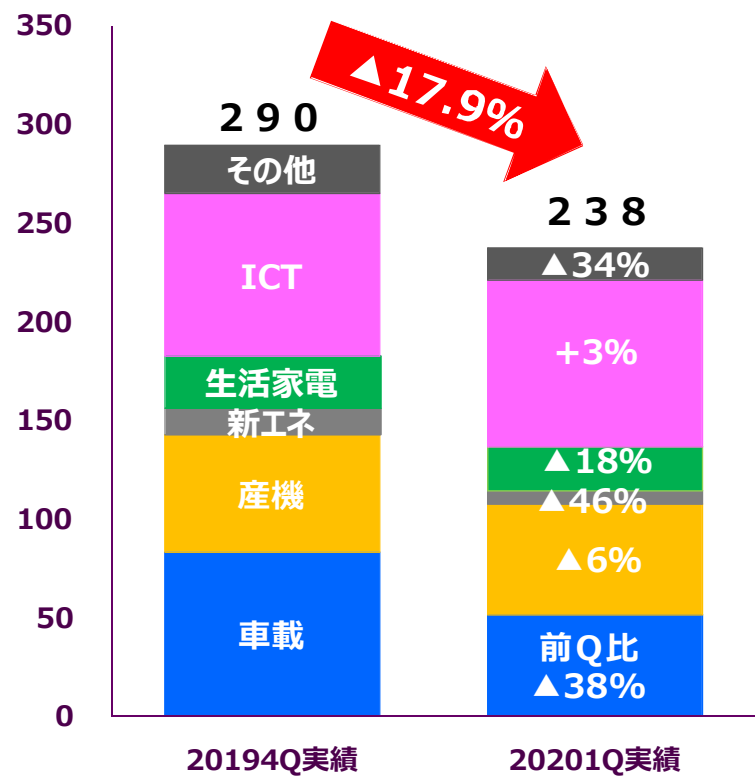
単位：億円

	2019年度		2020年度	前年同期比		前四半期比	
	第1四半期	第4四半期	第1四半期	増減	(%)	増減	(%)
アルミ電解	240.2	246.6	201.3	△38.9	△16.2	△45.3	△18.3
内 導電性	26.0	38.6	33.7	+7.7	+29.8	△4.9	△12.7
DLCAP™	11.8	10.0	5.4	△6.3	△53.8	△4.5	△45.4
セラコン・バリスタ	7.3	7.3	6.1	△1.2	△17.4	△1.2	△16.4
機構	8.4	7.3	6.0	△2.3	△28.3	△1.3	△17.8
コンデンサ材料	10.8	13.5	14.1	+3.2	+29.6	+0.5	+4.2
その他	8.3	4.7	4.7	△3.6	△43.0	△0.0	△0.0
合計	287.2	289.7	237.8	△49.4	△17.2	△51.9	△17.9

# ● 2020年度第1四半期実績（市場別売上高 前四半期比較）

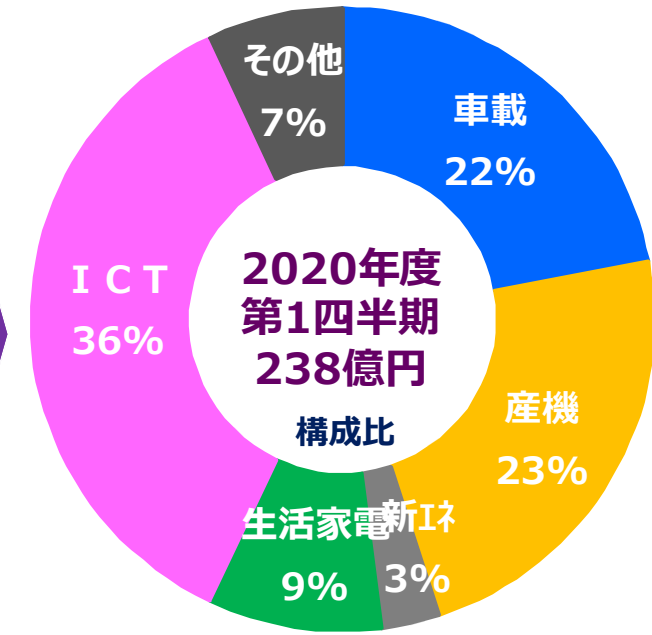
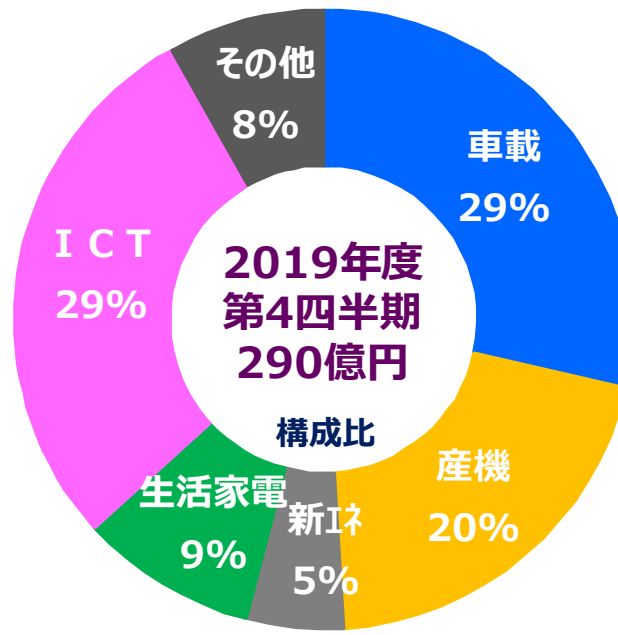
**COVID-19感染拡大の影響で車載市場を中心に需要が大幅に減少**

売上高：億円



↓ 車載：中華圏以外の市場での販売低迷が続いた

↑ ICT市場：通信5G基地局の立上げとサーバー需要が旺盛に



## ● 2020年度第1四半期実績（営業利益 前四半期比較）

収益改善要因 ① コストダウンの実行 ② 製造固定費の圧縮 ③ 販売管理費圧縮

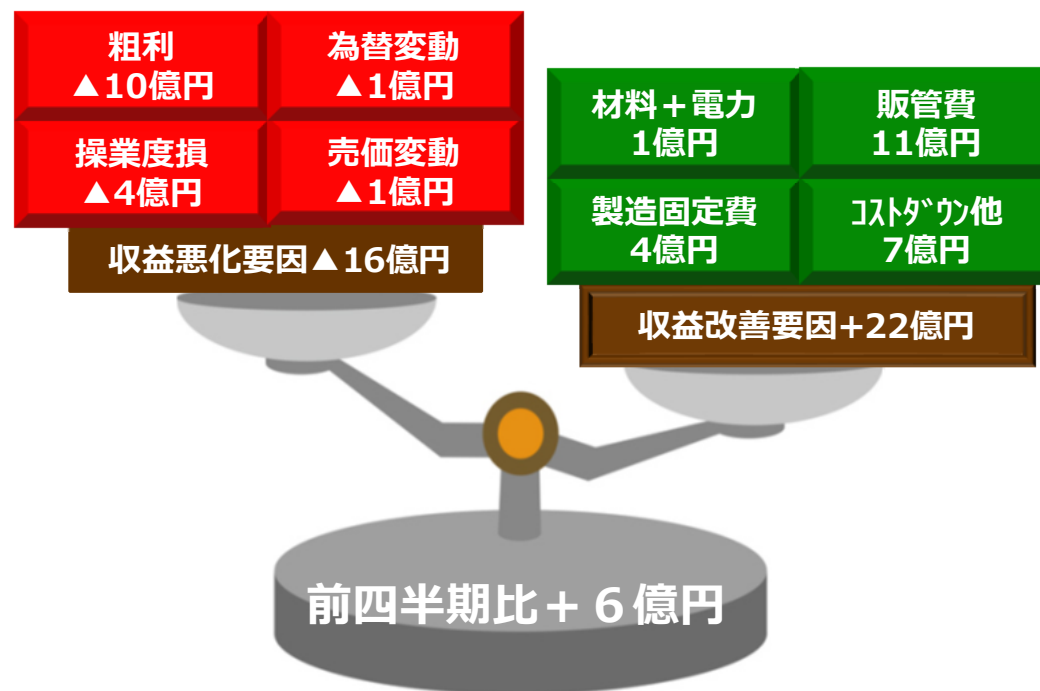
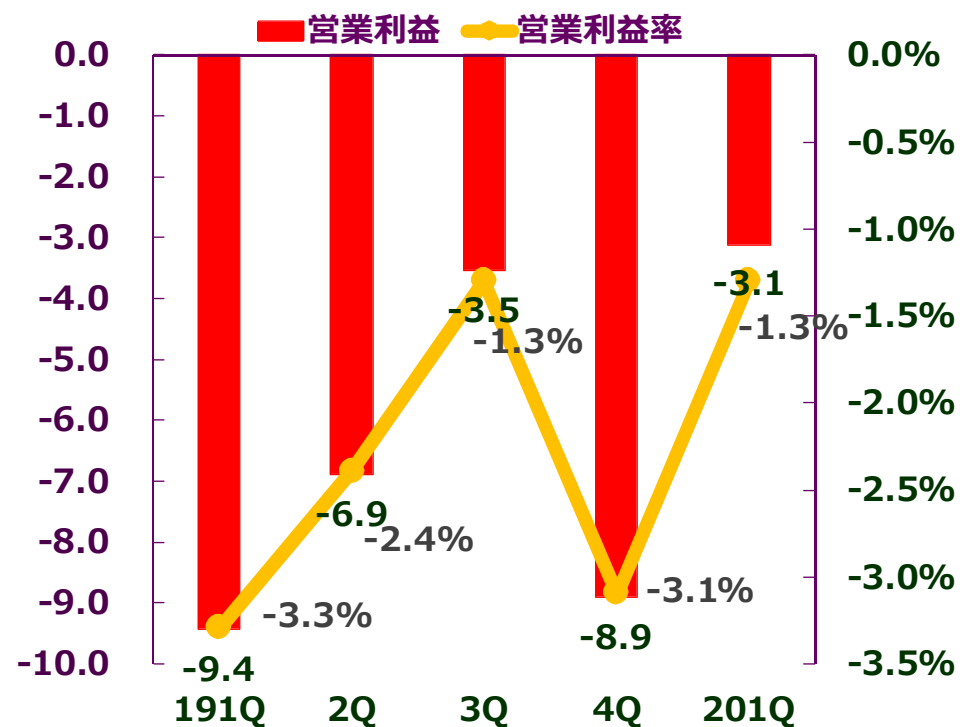
収益悪化要因 ① COVID-19感染拡大による車載市場を中心とする需要の大幅ダウン

営業利益  
億円

営業利益四半期推移

営業利益率

2020年度第1四半期  
営業利益増減要因



● 構造改革の進捗状況について

2020年5月発表に沿って、構造改革は計画通りに進捗

主要施策	2020年度1Q実績
① 固定費削減 人件費削減、減価償却費など 計画に沿って、進行中	+ 2.5億円
② 生産性向上による改善 スマートファクトリー化推進 電極箔事業高稼働体制の確立	+ 1.8億円
<b>業績改善効果 計</b>	<b>+ 4.3億円</b>

## ● 2020年度業績見通し（COVID-19による影響について）

- COVID-19の感染拡大は、第1四半期中に一部落ち着きをみせ、第2四半期より需要は、徐々に回復する見通し。
- 生産拠点の影響については、2月の無錫、4月のマレーシアでの生産停止以外には、新たな生産停止は見込んでいない。
- 中華圏の需要と生産はいち早く回復したが、米中貿易摩擦の再燃による影響も一部考慮する。
- テレワーク拡大で、5G、データセンター、PC関連市場が堅調に伸長する。
- 車載市場は、第2四半期から先進国や中国を中心に景気刺激策や財政出動により徐々に回復するが、開発途上国の需要回復は厳しい状況。
- 産業機器市場は、第1四半期を底として、第2四半期より徐々に回復。

● COVID-19後における需要拡大市場への取り組み

導電性高分子及びハイブリッドコンデンサ需要拡大による収益性の改善

- ① リモートワーク拡大によるIT端末機器の増加  
⇒ノートPC、タブレット端末需要の拡大
- ② データトラフィックの増大によるデータセンターの増設  
⇒サーバー需要の拡大
- ③ 通信需要増加による通信5G普及加速  
⇒5G基地局需要の拡大



今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

〔注意事項〕

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測につきましては、本資料作成時点において入手可能な情報により当社が合理的に判断した予想であり、実際の業績は、今後、様々な要因により変動する場合がございます。また、本資料に記載されている将来予想に関する事項についてその内容を更新し、公表する責任を負いませんのでご了承願います。投資に関する最終決定につきましては、投資家の皆様ご自身の判断で行われますようお願い致します。本資料の内容に基づいて投資された結果、万一何らかの損害を被られましても、当社及び各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承願います。

〔Note〕

The projected performance figures in this material are based on information available to Nippon Chemi-Con's management at the time this material was prepared.

There are many uncertain factors inherent in forecasting, and there might be cases in which actual results differ from forecast values. Nippon Chemi-Con undertakes no obligation to publicly update or revise any forward-looking statements included in this material.

If you are interested in investing in Nippon Chemi-Con, you are requested to make a final investment decision at your own risk.

Please note that neither Nippon Chemi-Con nor any third party providing information shall be responsible for any damage or loss you may suffer due to investment in Nippon Chemi-Con based on the information shown in this material.